

## 第4章 地域ごとの公共施設を通じた 公共サービスの実態

1. 地域別実態把握
  - ①市全体から見た地域の特色
  - ②地域ごとの分析
    - (1)鎌倉地域
    - (2)腰越地域
    - (3)深沢地域
    - (4)大船地域
    - (5)玉縄地域

# 第4章 地域ごとの公共施設を通じた公共サービスの実態

## 1. 地域別実態把握

中長期的な視点に立ち、公共施設の効果的・効率的なマネジメントを推進していくためには、各地域の人口・地域特性を把握した上で、地域内における公共施設の整備状況と利用実態を整理し、総合的に改善の方向性を検討する必要があります。

第4章では、5地域ごとに地域内の施設課題を抽出し、総合的に検討を行います。



## ①. 市全体から見た地域の特徴

### ■ 人口動態・保有施設概要

各地域の面積・人口とも鎌倉地域が最も大きく、面積で全体の 36%、人口で全体の 27%を占めています。逆に面積・人口共に小さいのは腰越及び玉縄地域です。

平成 23 年度実施の将来人口推計(暫定版:平成 23 年 10 月時点)を見ると、平成 42 年の総人口は市全体で 7.6%の減少ですが、腰越・深沢両地域では 10%以上の急激な減少が推計されています。一方で大船地域は 2%の増加が見込まれており、鎌倉及び玉縄地域は微減といった推計で、大きな地域差がみられます。

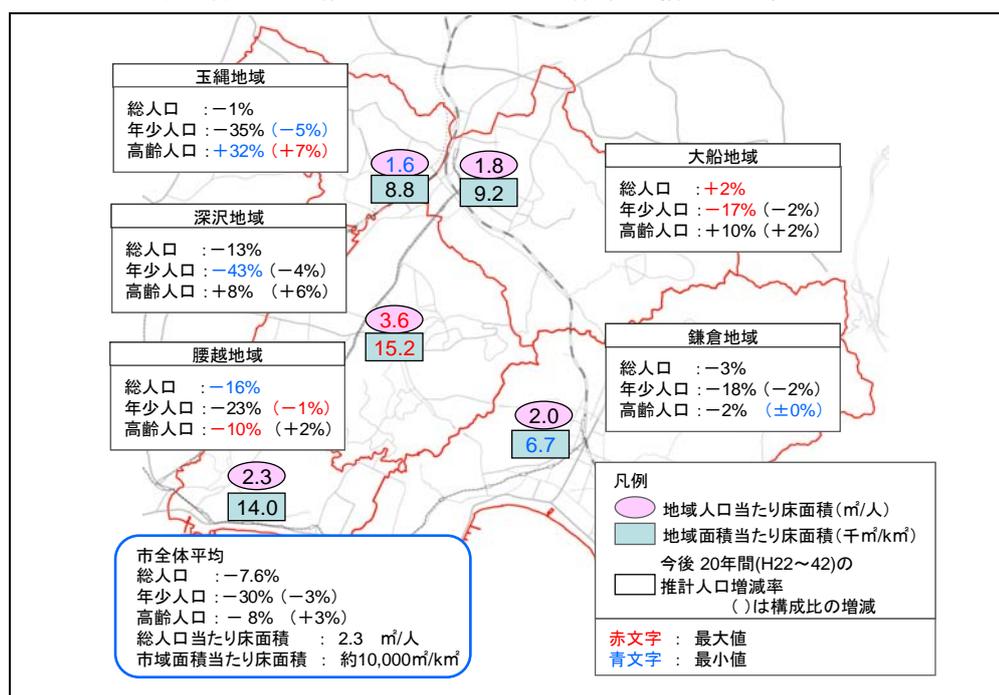
3 階層別人口構成は、現在年少人口比率の最も高いのが玉縄地域、高齢人口比率の最も高いのが腰越地域ですが、将来推計では変動量にかなり地域差があり、特に玉縄地域の急激な少子高齢化が目立ちます。また、年少人口や年少人口比率が全地域で減少、高齢人口比率が全地域で増加するのに対し、高齢人口は深沢・大船・玉縄の 3 地域で増加、鎌倉・腰越の 2 地域では減少するといった違いもあげられます。

一方、地域別の施設保有量(床面積)をみると、総量では地域面積・地域人口とも最大の鎌倉地域が最も多く保有しており、地域人口当たり・地域面積当たりの施設保有量を見ると、地域人口当たり・地域面積当たりとも深沢地域が最大で、鎌倉地域が山林ほか開発等規制区域を多く有し、地域の施設密度としては最大でないことがわかります。他方、人口や地域面積の小さい腰越・玉縄地域は、地域人口当たり・地域面積当たりとも施設保有量が少ないこともわかります。

表 平成 22 年 1 月現在 人口構成及び・地域面積

	鎌倉地域	腰越地域	深沢地域	大船地域	玉縄地域	市全体
地域面積(km <sup>2</sup> )	14.22	4.21	8.22	8.40	4.48	39.53
(市内比率)	36%	11%	21%	21%	11%	11%
総人口(人)	48,422	25,814	34,629	42,664	25,464	176,993
(市内比率)	27%	15%	20%	24%	14%	14%
年少人口	5,500	2,801	4,306	5,004	3,559	21,170
年齢階層構成比(%)	11%	11%	12%	12%	14%	12%
生産年齢人口	28,626	14,968	21,070	27,338	16,226	108,228
年齢階層構成比(%)	59%	58%	61%	64%	64%	61%
高齢者人口	14,296	8,045	9,253	10,322	5,679	47,595
年齢階層構成比(%)	30%	31%	27%	24%	22%	27%
市有施設数	92	24	45	44	27	232
市有施設床面積(m <sup>2</sup> )	95,042	58,843	124,986	76,978	39,564	395,413

図 平成 42 年の将来人口推計による人口と 3 階層別構成比の変化・地域人口・面積当たりの保有施設量



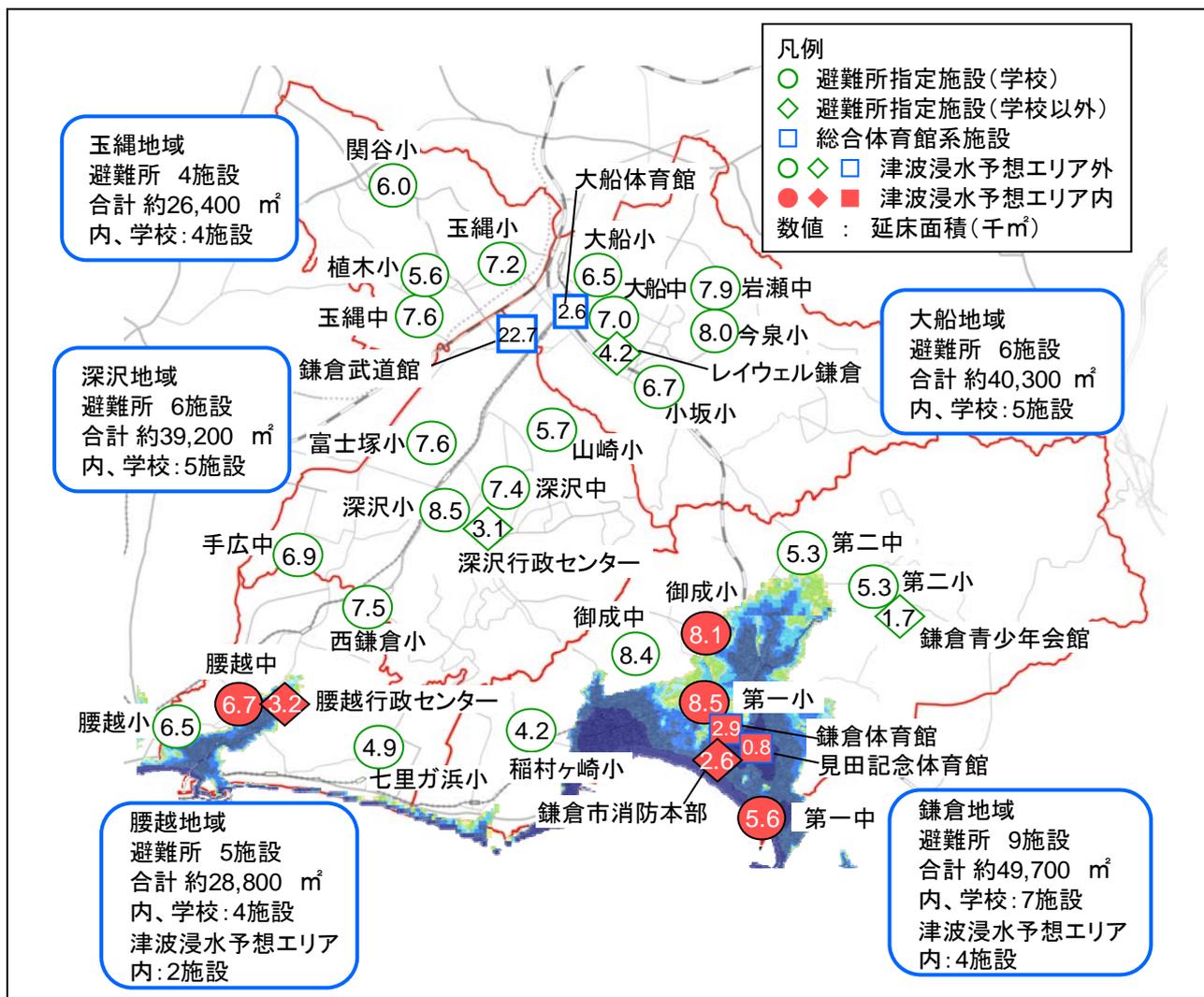
■ 避難所指定施設の配置

鎌倉市内で市有施設の避難所指定状況について地域別に見ると、全ての小・中学校がミニ防災拠点として指定され、緊急時の食料等の備蓄などを行っています。学校の他にも腰越及び深沢行政センターやレイ・ウェル鎌倉などが避難所に指定され、人口などの地域規模に応じた避難所配置を構成しています。

このような避難所設置状況に対し、東日本大震災を受けて津波浸水予想エリアが見直され、エリア内の避難所指定をどうすべきか、また、これに代わる避難所をどう確保すべきかといった課題が新たに生じてきています。また、津波以外の災害においても、観光客を含む市外在住の帰宅困難者対策が求められており、これらの課題に包括的に対応した対策が必要となっています。特に緊急避難者の収容可能な大空間を持つ施設の避難所対応化が求められるものと考えられます。

限られた施設整備予算の中で、直ちに全ての避難所指定施設の整備や確保は困難と考えられることから、優先整備施設を設定し、順次整備を進めるという手法が考えられます。そのためには、候補となる施設の現在の整備状況を把握して整備コストを把握することも含め、計画的にかつ迅速に対応を進めることが求められるものと考えられます。

下図は現状の避難所指定施設の配置、施設床面積及び津波浸水予想エリアとの関係を示したものです。特に鎌倉地域で、津波浸水予想エリアの影響が大きいことがわかります。



② 地域ごとの分析

(1) 鎌倉地域

■ 地域の特徴

① 概要

鎌倉地域は南を相模湾に、他三方を山に囲まれ、他地域に比べ独立性の高い地域です。人口は約 4.8 万人で、市の人口の約 27%を占めています。

面積は約 14km<sup>2</sup>で、市の面積の約 36%を占めています。地域のほぼ中央を南北方向に JR 横須賀線、東西方向海岸沿いに江ノ島電鉄線が運行しています。

市域の多くは山林で、風致地区及び歴史的風土保存区域に指定され、開発が規制されています。史跡や文化財が豊富で、海岸と共に豊富な観光資源となっています。

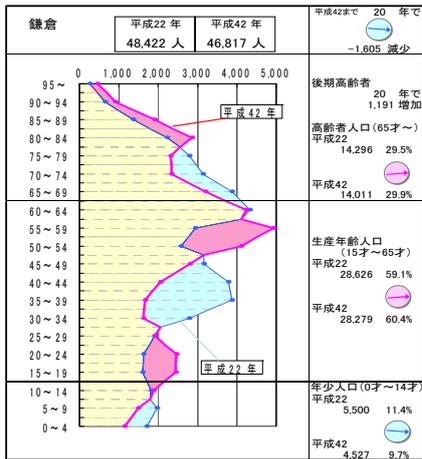
② 人口

鎌倉地域の人口の総数は今後 20 年間で 3%の減少が見込まれています。

高齢者人口は 20 年後に 2%減少する推計となっていますが、高齢化率としては現状と変わらず約 30%の予測となっています。

年少人口は 20 年後に 18%減少と大幅に減る推計となっており、年少人口比率は現状の 11.4%から 9.7%に減少する予測となっています。

■ 人口動態



	鎌倉地域			
	平成22	平成42	増減数(人)	変動率
地域面積(km <sup>2</sup> )	14.22			
総人口(人)	48,422	46,817	-1,605	-3%
年少人口	5,500	4,527	-973	-18%
年齢階層構成比(%)	11%	10%	-2%	
生産年齢人口	28,626	28,279	-347	-1%
年齢階層構成比(%)	59%	60%	1%	
高齢者人口	14,296	14,011	-285	-2%
年齢階層構成比(%)	30%	30%	0%	

年少人口比率最小  
生産年齢比率唯一増加  
高齢化率増加最小

**鎌倉**  
人口 48,422人  
面積 14.22km<sup>2</sup>  
人口密度 3,405人/km<sup>2</sup>  
主な施設数 92  
総床面積 95,042m<sup>2</sup>  
人口・地域面積・保有施設量**最大**

**市役所 (1)**  
14,244m<sup>2</sup>

**文化財・博物館類 多数**

**市営住宅 (0)**  
市営住宅以外のほとんどの機能を保有する

**体育館 2館**  
**プール 1館**

**福祉系 多い**

**図書館 (1)**  
センター館 広域対応機能

**学校 7校 (将来+3 学級)**  
**保育園 2園**  
**子育て系 8館**

**その他施設 (2)**

## ■公共施設配置の実態

### ① 保有施設の特徴

鎌倉地域は5地域中最も多くの施設が配置され、特に市役所や体育館、福祉センターなど多数の広域的な機能を持つ施設とともに、生涯学習センターや中央図書館など、地域施設もセンター機能を持った施設を有しています。市営住宅を除くほとんど全ての機能を有しますが、施設建物は古いものが多く、学校を除く主要な施設でも未耐震の施設があります。なお、その他の施設として、文化財や博物館関連の施設が集中しています。

### ② 学校

当該地域の学校は、小学校が4校、中学校が3校で、第二中学校建替後で7校中4校が築30年以上の施設です。今後5年間の将来推計では、小学校で増加予測が1校、減少予測が2校で、全体では1学級減の推計です。中学校は増加予測が2校で、地域合計でも増加の推計となっています。

### ③ 支所・生涯学習センター・図書館

いずれも単独施設で、センター機能を持つ施設です。鎌倉生涯学習センターと中央図書館は耐震化未実施で、老朽化対策も必要です。

### ④ 子育て・高齢者関連施設

保育園は2園ありますが、1地域に1拠点園とする計画です。子ども会館は2館、子どもの家は4施設あります。高齢福祉施設1館の他、福祉センターや在宅福祉サービスセンターなどがあります。

### ⑤ 津波浸水予想エリア内の施設

鎌倉地域は津波浸水予想エリアが最も広い地域で、エリア内の施設が20施設、床面積の合計はおよそ5万7千㎡で、このうち、避難所指定施設が4か所あります。

## ■今後の検討の視点

### ① 津波対策

当該地域の最も大きい課題は、浸水予想エリア内に位置する施設を今後どうするかということです。また市役所や消防本部といった市の中核施設をはじめ、センター機能を持つ主要施設が集中して配置されており、エリア内の避難所の検討と共に早急な対応が求められています。

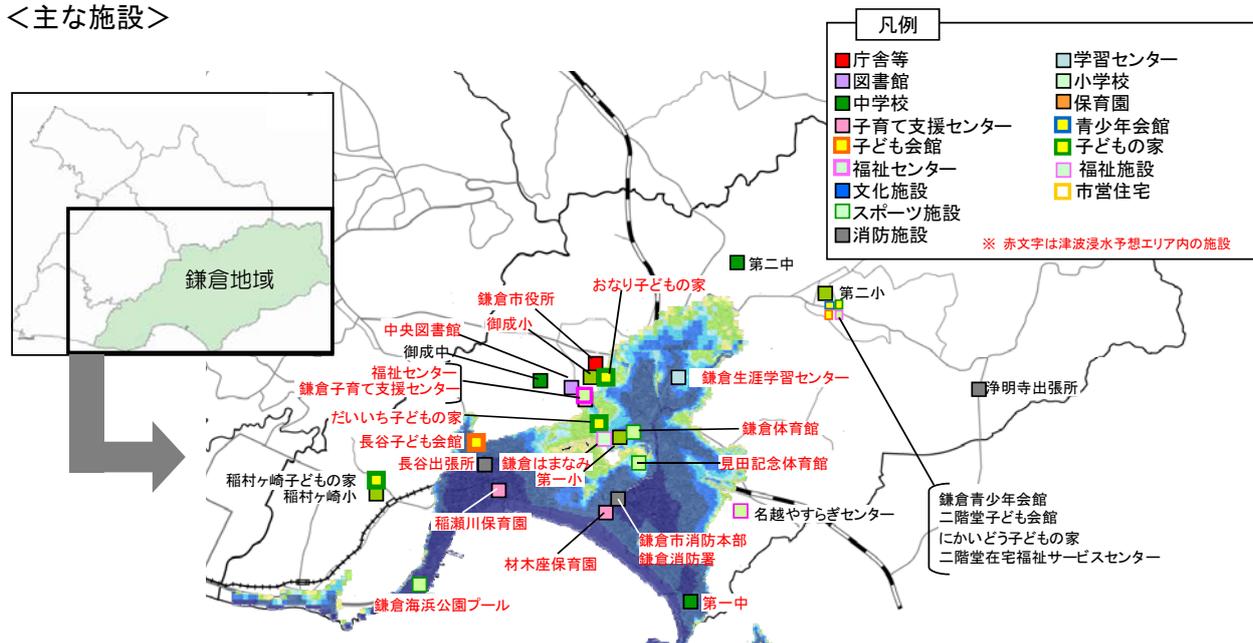
### ② 地域の広さ

当該地域は他の地域に比べて地域エリアが広く、将来予想される人口減少に伴う施設機能集約などの検討の際には、利便性の低下に配慮が必要です。

### ③ コスト効率の改善

当該地域の主要施設の多くは市の直営でセンター機能を持っており、他地域よりトータルコストが割高となっています。運営面の効率改善も課題のひとつと考えられます。

### <主な施設>



(2) 腰越地域

■地域実態マップ

■地域の特色

① 概要

腰越地域は南を相模湾に、鎌倉地域の西に位置しています。また、藤沢市に隣接しており、図書館などで藤沢市からの利用がみられます。人口は約 2.6 万人で、市の人口の約 15%を占めています。

面積は約 4km<sup>2</sup>で、市の面積の約 11%を占めています。地域南北方向には湘南モノレールで大船に接続し、海岸沿いは江ノ島電鉄線で鎌倉と湘南海岸に通じています。

地域内の多くが風致地区に指定され、海岸と共に豊富な観光資源となっています。

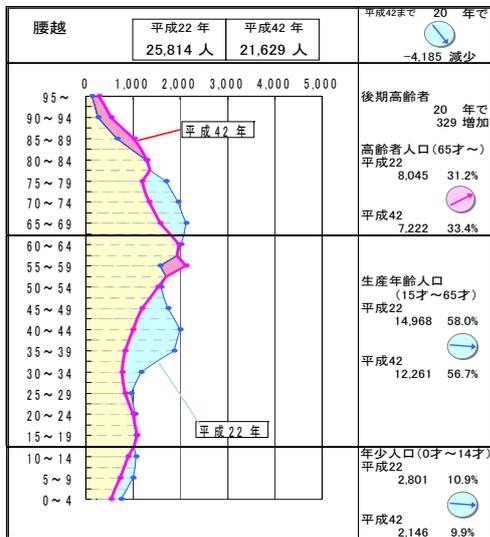
② 人口

腰越地域の人口の総数は今後 20 年間で 16%の減少が見込まれています。

高齢者人口比率は現在 31.2%で、推計によれば 20 年後にはさらに 33.4%に増加することが予想されます。但し、高齢者人口では 10%減少する見込みです。

20 年後の年少人口は 23%減少、年少人口比率では 10.9%から 9.9%に減少する推計となっています。

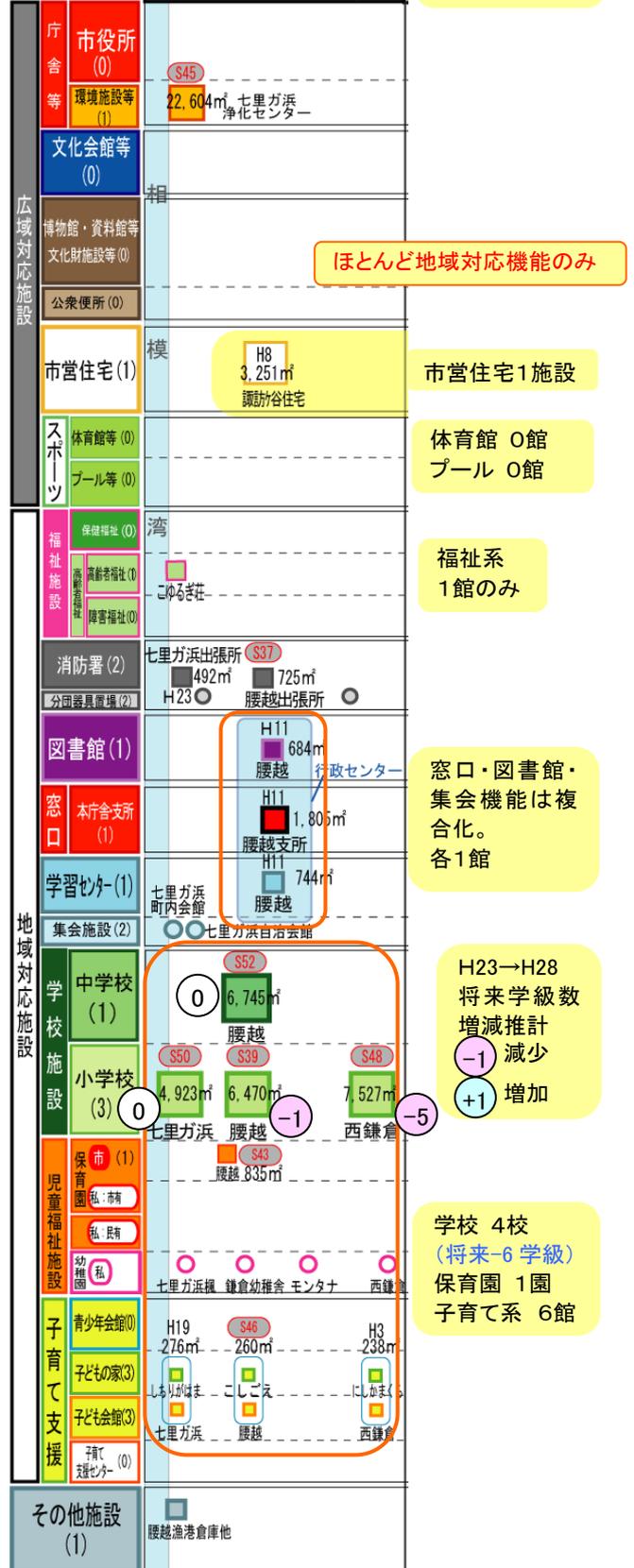
■人口動態



将来人口**最小**  
 年少・生産人口比率**最小**  
 生産人口・高齢人口減少**最大**  
 高齢化率**最大**

腰越	
人口	25,814人
面積	4.21km <sup>2</sup>
人口密度	6,132人/km <sup>2</sup>
主な施設数	24
総床面積	58,843m <sup>2</sup>

地域面積・保有施設量**最小**  
 人口密度**最大**



ほとんど地域対応機能のみ

市営住宅1施設

体育館 0館  
 プール 0館

福祉系  
 1館のみ

窓口・図書館・集会機能は複合化。各1館

H23→H28  
 将来学級数増減推計  
 -1 減少  
 +1 増加

学校 4校  
 (将来-6学級)  
 保育園 1園  
 子育て系 6館

## ■公共施設配置の実態

### ① 保有施設の特徴

腰越地域は保有施設が 5 地域中最も少ない地域で、施設は概ね地域住民を対象とした機能を有しています。地域の中心施設である学校はいずれも築 30 年を超える建物です。なお、市営住宅が 1 施設ありますが、これは比較的新しい建物です。

### ② 学校

当該地域の中心施設である学校は、小学校が 3 校、中学校が 1 校あります。今後 5 年間の推計は、小学校で合計 6 学級の減少で、特に西鎌倉小学校は 5 学級の急激な減少が見込まれています。

### ③ 支所・生涯学習センター・図書館

この 3 機能は行政センターに複合化され、地域市民サービスの拠点となっています。広域施設がないため、集会・貸館機能はこの学習センターのみとなっています。図書館は藤沢市からの利用が 11%と、つながりの強さが伺えます。

### ④ 子育て・高齢者関連施設

当該地域の市立保育園は 1 園あり、民営の保育園はありません。高齢者福祉施設はこゆるぎ荘 1 館です。

### ⑤ 津波浸水予想エリア内の施設

腰越地域の津波浸水予想エリア内の市有施設は 4 か所で、床面積の合計は 1 万㎡強です。このうち、腰越中学校と腰越行政センターは避難所指定施設です。

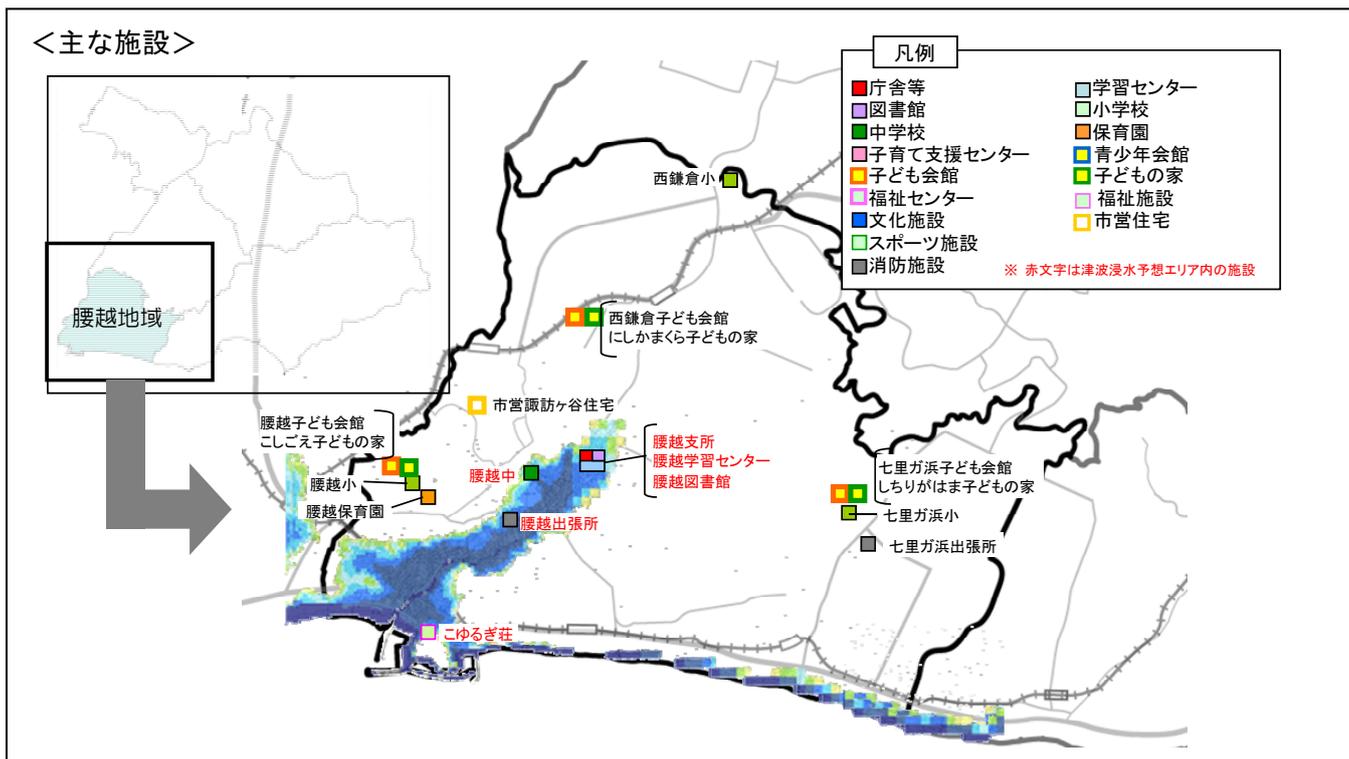
## ■今後の検討の視点

### ① 津波対策

鎌倉地域と同様、津波浸水予想エリア内に位置する施設、避難所の扱いが課題です。これには地域行政の拠点である行政センター、防災の拠点である消防腰越出張所が含まれます。

### ② 人口減少

当該地域は将来人口が最小、高齢化率が最大と推計されている地域です(但し、高齢者人口は減少)。また、地域面積・施設量が最も小さい地域でもあり、利便性を考慮すれば、元々少ない施設量をさらに集約するなどの統廃合による効率化には限界があると考えられます。また一方では、学習センターの稼働率は高く、保育園は 1 園しかないなど、量的な整備が望まれる分野もあります。人口構成の変化により生じる可能性のある余剰スペースなどの活用と合わせた対策や、交通の便のよい藤沢市との連携など、多様な方策の検討が求められるものと思われます。



(3) 深沢地域

■地域の特徴

① 概要

深沢地域は鎌倉、大船地域の西側に位置し、藤沢市と接した地域です。人口は約 3.5 万人で、市の人口の約 20%を占めています。

面積は 8.22km<sup>2</sup>で、市の面積の約 21%を占めています。地域のほぼ中央を南北方向に大船と腰越・藤沢方面を結ぶ湘南モノレールが運行しています。

地域東部には、昭和 30 年代以降に急激に開発された住宅地があります。また、地域西側は工業地帯となっています。現在はこの西側の深沢地域国鉄跡地の整備計画が進められています。

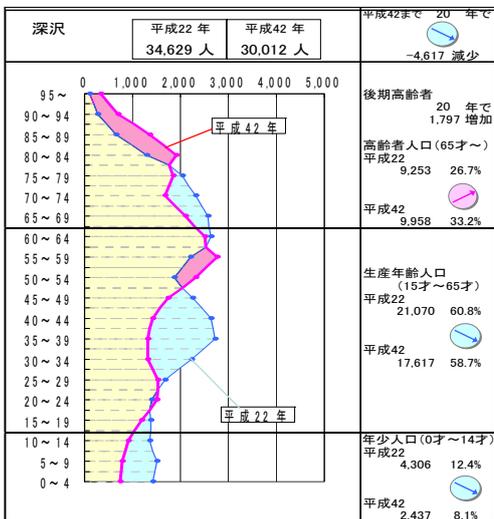
② 人口

深沢地域の人口の総数は今後 20 年間で 13%の減少が見込まれています。

現状で高齢者人口比率は 26.7%ですが、20 年後には 33.2%となり、急速な高齢化が進行する地域となることが予測されています。

年少人口は 43%減少することが予想されています。

■人口動態

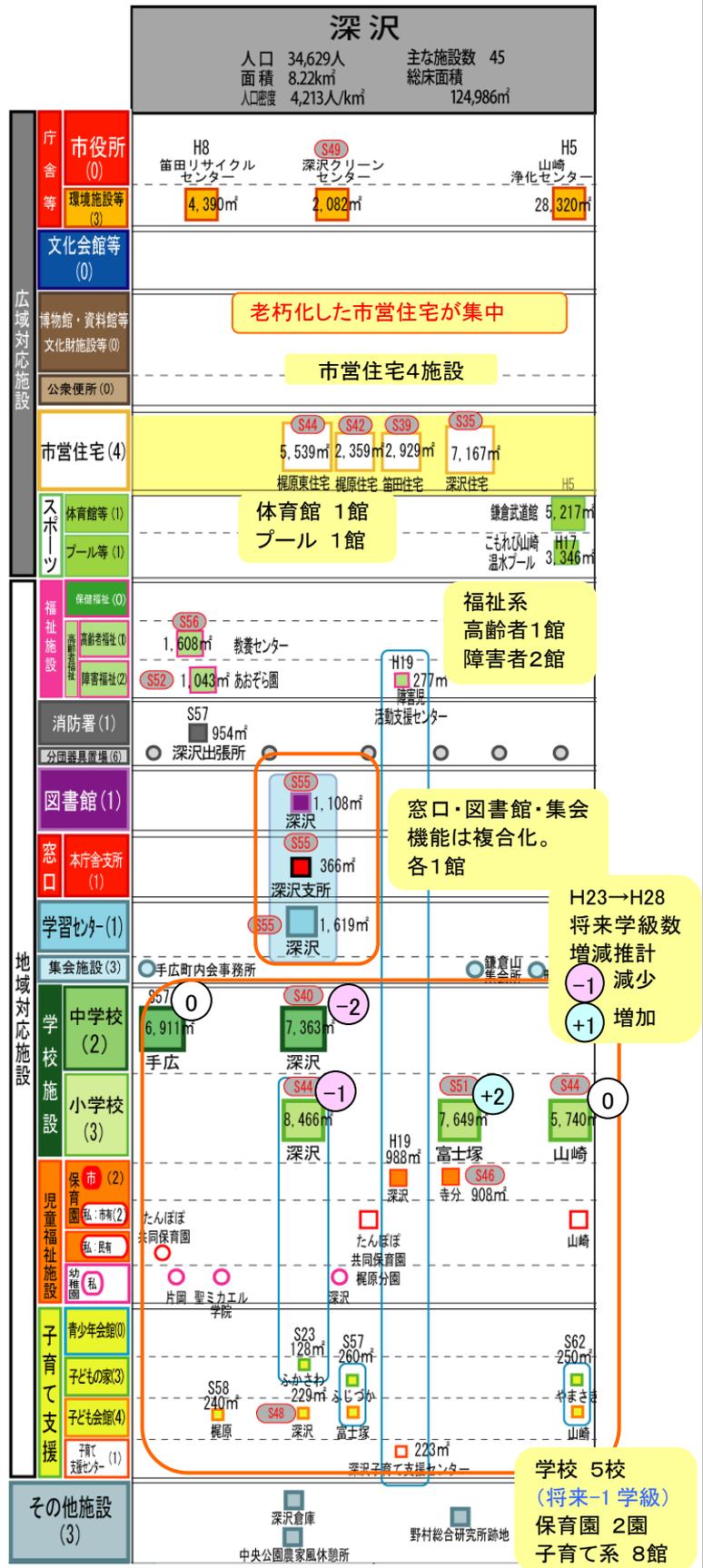


	深沢地域		増減数(人)	変動率
	平成22	平成42		
地域面積(km <sup>2</sup> )	8.22			
総人口(人)	34,629	30,012	-4,617	-13%
年少人口	4,306	2,437	-1,869	-43%
年齢階層構成比(%)	12%	8%	-4%	
生産年齢人口	21,070	17,617	-3,453	-16%
年齢階層構成比(%)	61%	59%	-2%	
高齢者人口	9,253	9,958	705	8%
年齢階層構成比(%)	27%	33%	6%	

年少人口減少数最大  
将来年少人口比率最小  
将来高齢化率最大

■地域実態マップ

地域面積当たり  
保有施設数最大



## ■公共施設配置の実態

### ① 保有施設の特徴

深沢地域は地域面積当たりの保有施設量が5地域中最大です。これは、地域に市営住宅が集中していること、鎌倉武道館やこもれび山崎温水プールなどのスポーツ施設、ごみ処理系施設などがあることによります。なお、市営住宅は築年数が古く、老朽化が進んでいます。

### ② 学校

当地域の学校は、小学校が3校、中学校が2校あります。5校中4校が築30年を超え、残る1校も築27年と、老朽化が進行しています。今後5年間の推計で、地域トータルの学級数は減少が見込まれています。

### ③ 支所・生涯学習センター・図書館

この3機能は行政センターに複合化され、地域市民サービスの拠点となっています。

### ④ 子育て・高齢者関連施設

当該地域の市立保育園は現在2園ありますが、1地域1拠点園とする計画です。子どもの家などの子育て系施設も比較的多く、子どもの家3、子ども会館4のほか、深沢子どもセンター内には市内3施設のうちの1つである深沢子育て支援センターがあります。

福祉関連は高齢者福祉施設1館のほか、障害者関連施設が2施設あります。

## ■今後の検討の視点

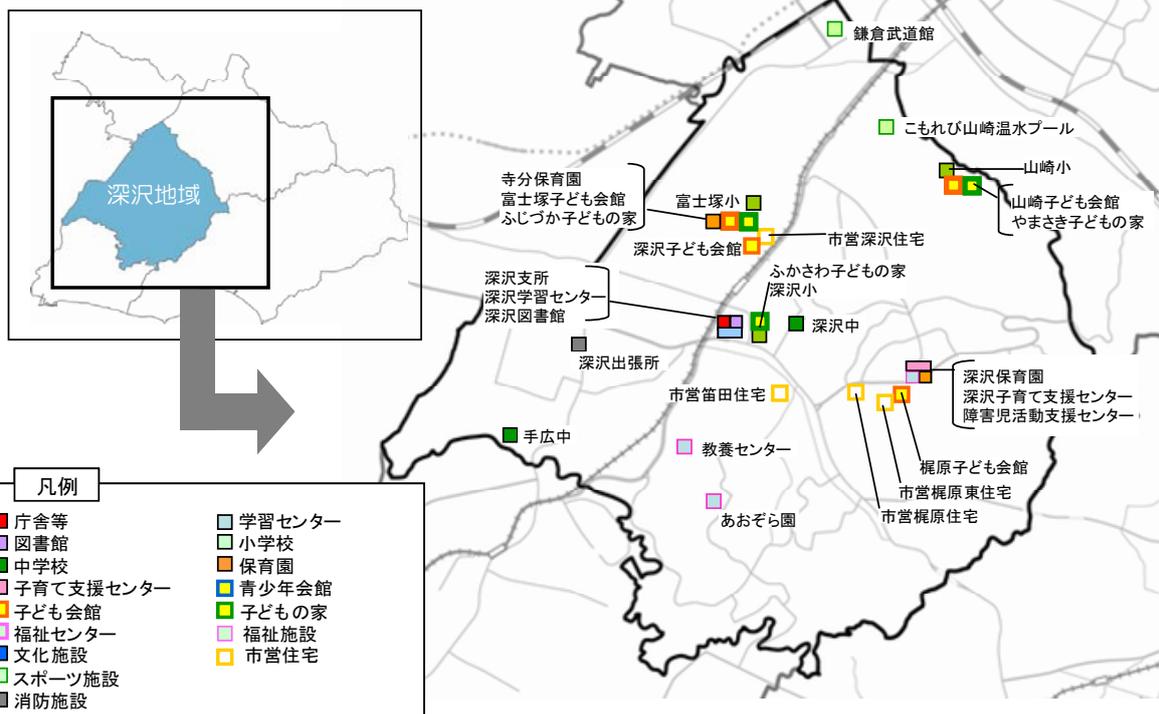
### ① 少子高齢化対応

深沢地域は昭和30～50年代に集中開発された住宅が多くあり、急激な高齢化が進んでいます。また、年少人口の減少数も市内で最大の地域で、最も少子高齢化が進むと予想される地域のひとつです。元々一般市民の住生活に密着した学校、子育て関連施設、福祉施設などが整備されてきた地域ですが、今後急激な少子化に伴って、子育て・学校系の施設に余剰スペースが生じてくるものと考えられます。将来の人口構成とニーズの変化による必要施設の数量を考慮した施策の検討が必要になると考えられます。

### ② 老朽化住宅

上記の少子高齢化と同様の背景から、大量に保有する古い市営住宅の耐震化・老朽化対策が、当地域の課題のひとつと言えます。また、当該地域の市営住宅はエレベーターがなく、特に高齢者や障害者が入居しやすい住宅供給を目的とする市営住宅においては、バリアフリー化は必須条件とも言えます。そのためには、大規模な改修あるいは建替えの検討が求められます。

### <主な施設>



(4) 大船地域

■地域の特色

① 概要

大船地域は北側で横浜市と接し、南は鎌倉及び深沢地域と接しています。大船駅周辺を中心とした商工業の中心地域です。人口は約 4.3 万人、市の人口の約 24%を占めています。面積は 8.4km<sup>2</sup>で、市の面積の約 21%を占めています。大船駅は JR 東海道線、横須賀線、湘南モノレールの乗換駅となっています。

地域北部は住居や商工業地域が、鎌倉地域と接する南部は山林が多く、風致地区及び歴史的風土保存区域に指定されています。

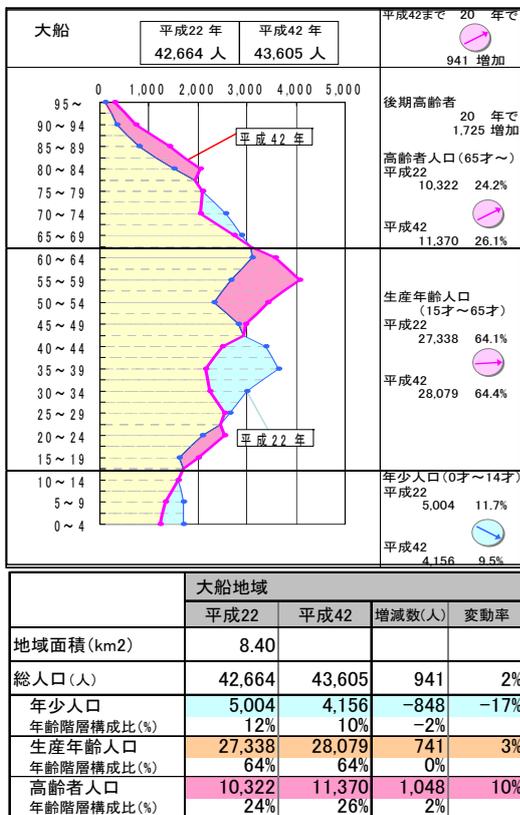
② 人口

大船地域の人口総数は、今後 20 年間で 2%の増加が見込まれています。5 地域中で人口増加が予測されるのは大船地域のみです。

高齢者人口比率の将来推計は市内最小で 26.1%、高齢者人口は 10%の増加見込みです。

年少人口の将来推計減少率は 17%で市内最小、また、生産年齢人口が 3%の増加で、これも増加予測は大船地域のみです。

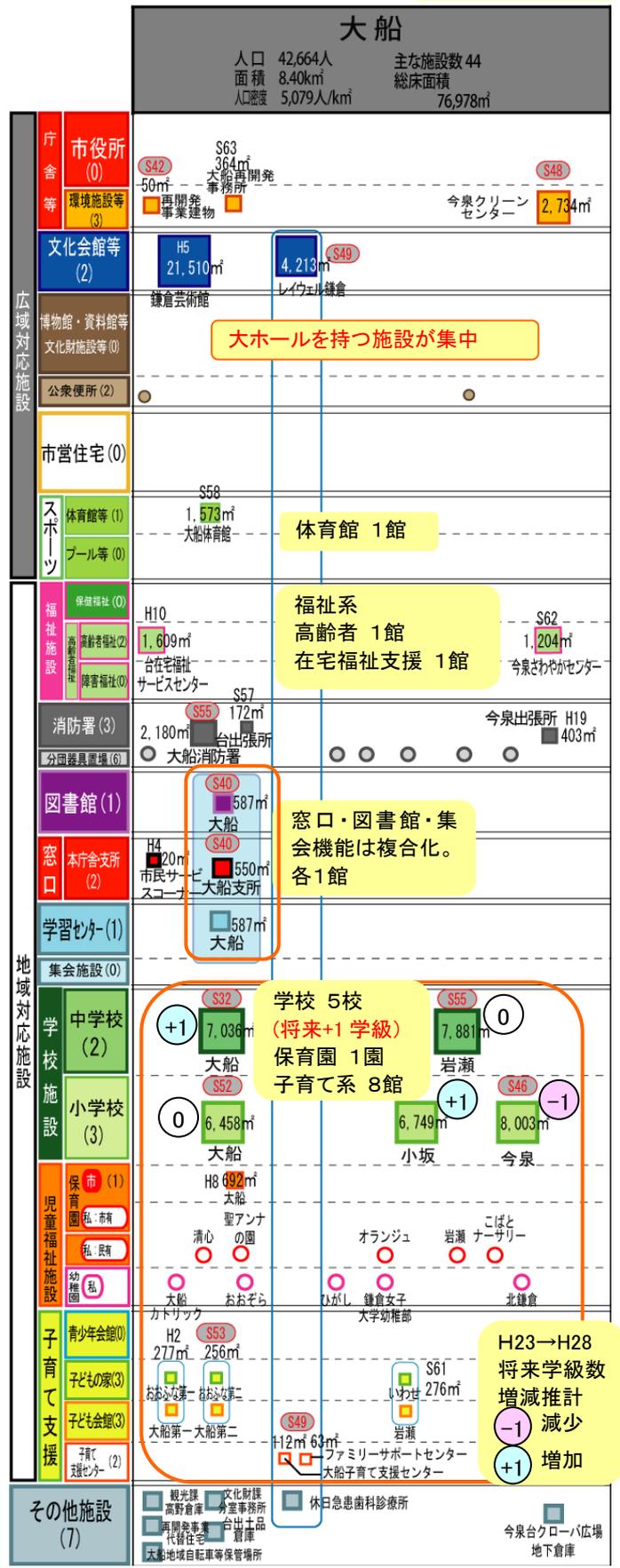
■人口動態



年少人口減少数最小  
 生産年齢人口比率最大  
 生産年齢人口増加(唯一)  
 将来高齢化率最小

■地域実態マップ

広域施設量最大



## ■公共施設配置の実態

### ① 保有施設の特徴

大船地域は広域対応施設の総床面積が5地域中最大です。これは大ホールを持つ多機能な施設である鎌倉芸術館とレイ・ウェル鎌倉の2館があることが大きく影響しています。この他に総合体育館の大船体育館があります。

### ② 学校

当該地域の学校は、小学校が3校、中学校が2校となっています。5校中4校が築30年を超える建物ですが、大船中学校は建て替えが計画されています。今後5年間の推計による学級数の変動予測は、各校が1学級以内の変動で、地域トータルでは1学級の増加となっており、5地域中で最も変動が小さい地域です。

### ③ 支所・生涯学習センター・図書館

この3機能は行政センターに複合化され、地域市民サービスの拠点となっています。なお、行政窓口は大船駅ビル内に市民サービスコーナーがあり、集会機能は、隣接地域ながら玉縄生涯学習センター分室も比較的に利用しやすく、生涯学習センター以外にもレイ・ウェル鎌倉や鎌倉芸術館といった施設も利用できます。レイ・ウェル鎌倉は稼働率が低く、また、建物の耐震化・老朽化が課題となっています。

### ④ 子育て・高齢者関連施設

当該地域の市立保育園は1園、子どもの家・子ども会館がそれぞれ3館あるほか、レイ・ウェル鎌倉内に子育て支援センター・ファミリーサポートセンターがあります。また、高齢者施設1館のほか在宅福祉サービスセンターがあります。

## ■今後の検討の視点

### ① 不足スペースの検証と対策

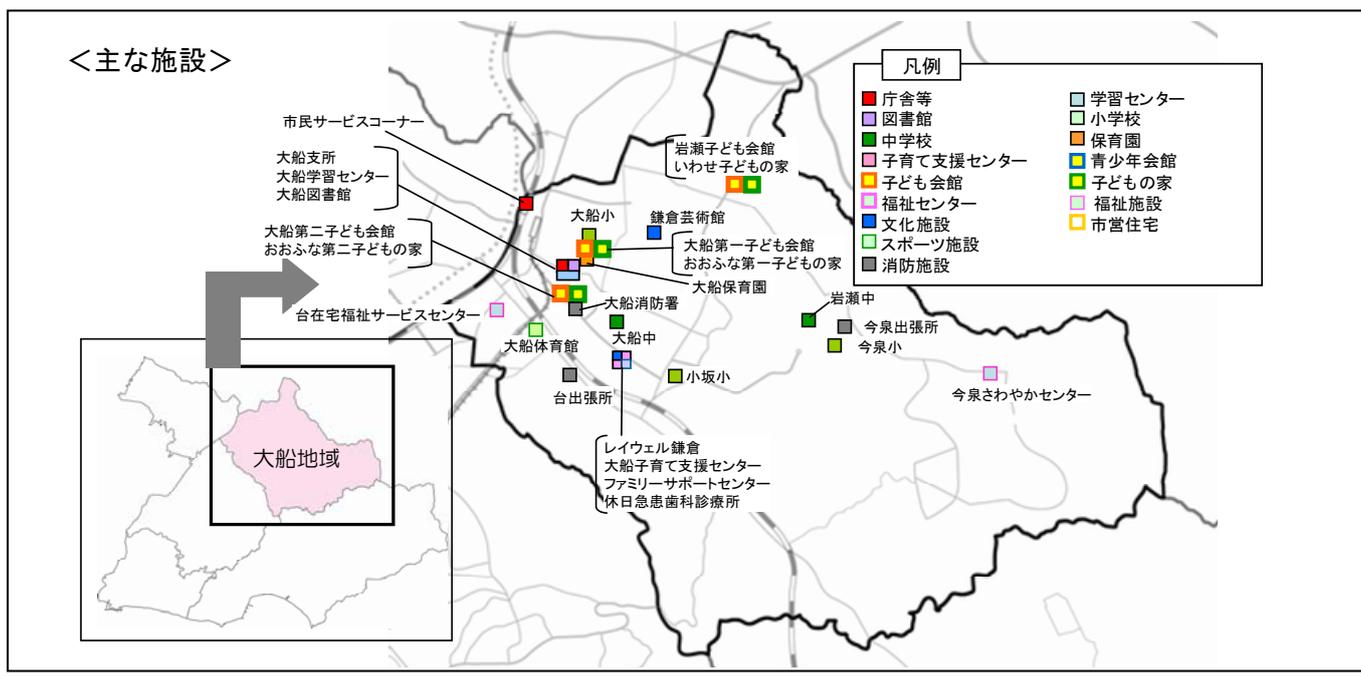
大船地域は、生涯学習センターや図書館、子育て系施設などで比較的に利用が多く、特に生涯学習センターの稼働率は80%を越えています。元々施設規模が小さい施設が多く、市内の人口集中地域としての施設量が不足していないか検証が必要です。また、推計では生産年齢人口の増加が予想され、現状でも利用者の多い夜間や休日利用の利便性向上なども含め、周辺地域や近隣自治体との連携も視野に入れた検討が必要です。

### ② 稼働率が低い施設の有効活用

レイ・ウェル鎌倉や大船体育館などは、用途によっては利用頻度が少なく、特にレイ・ウェル鎌倉は、鎌倉芸術館と機能が重複する部分があることから、必要な機能の見直しや、また建物の耐震化・老朽化も含め、総合的な検討が必要と思われます。

### ③ 高齢者人口の増加

当該地域は現状及び将来推計とも最も高齢化率の低い地域ですが、高齢者人口は今後20年間で10%の



(5) 玉縄地域

■地域の特色

① 概要

玉縄地域は地域南側を流れる柏尾川を挟んで大船及び深沢地域と接し、東・西・北の三方は横浜市、藤沢市と接しています。地域北部は農地が多く、人口・施設とも南部の大船駅周辺に集中しています。人口は約2.5万人で、市の人口の約14%を占めています。面積は約4.5km<sup>2</sup>で、市の面積の約11%を占めています。

② 人口

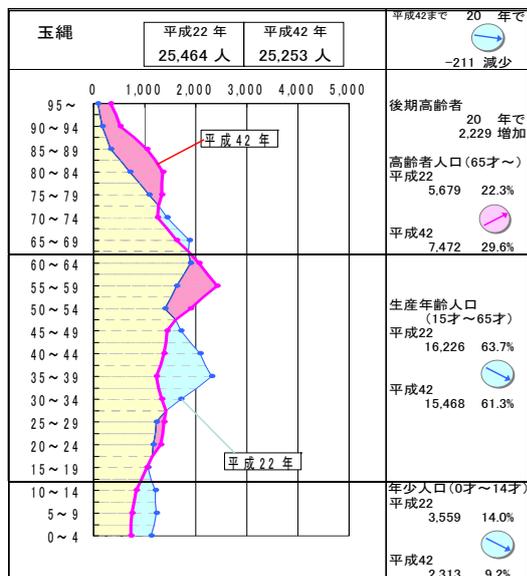
玉縄地域の人口総数は、今後20年間で1%の減少が見込まれています。

高齢者人口比率は、現在22.3%ですが、20年後の推計では29.6%で、約7%の大幅な増加予測となっています。また、高齢者人口総数も32%増加する予測で、これは5地域中最大です。

年少人口比率は、現在14.0%ですが、20年後の推計では9.2%にまで減少する推計となっています。

このように、玉縄地域は市内5地域中で最も急速に人口の年齢構成が変わると推計されている地域です。

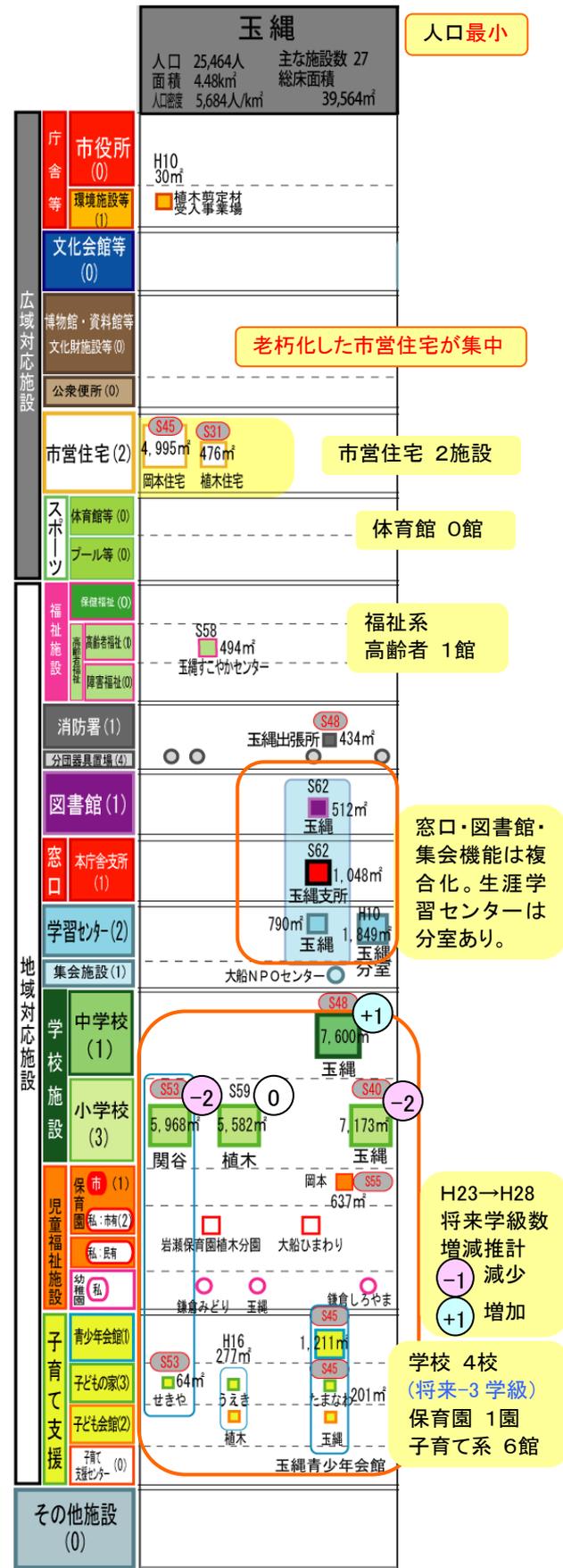
■人口動態



	玉縄地域		増減数(人)	変動率
	平成22	平成42		
地域面積(km <sup>2</sup> )	4.48			
総人口(人)	25,464	25,253	-211	-1%
年少人口	3,559	2,313	-1,246	-35%
年齢階層構成比(%)	14%	9%	-5%	
生産年齢人口	16,226	15,468	-758	-5%
年齢階層構成比(%)	64%	61%	-2%	
高齢者人口	5,679	7,472	1,793	32%
年齢階層構成比(%)	22%	30%	7%	

年少・生産人口比率最大  
 高齢人口比率最小  
 将来比率変動が最大となり  
 高齢人口増加数も最大

■地域実態マップ



## ■公共施設配置の実態

### ① 保有施設の特徴

玉縄地域は施設数としては少なく、主に地域住民を対象とした施設が配置されています。また老朽化した市営住宅が2施設あります。地域北部は農地が多く、施設は大船地域と接する側に集中しています。

### ② 学校

当該地域の学校は、小学校が3校、中学校が1校となっています。4校中3校が築30年を超える建物です。今後5年間の学級数の推計によれば、小学校2校が4学級減、中学校が1学級増と予測されています。

### ③ 支所・生涯学習センター・図書館

この3機能は行政センターに複合化されており、その他に玉縄学習センター分室が大船駅近くにあります。また、窓口機能としては大船駅ビル内の市民サービスコーナーも利用しやすい位置にあります。利用状況は行政窓口と図書館が、大船地域を除く他の行政センター3施設とほぼ同等です。学習センターの稼働率はやや低いですが、50%を越えており、休日・夜間の利用が可能な学習センター分室の稼働率は76%です。

### ④ 子育て・高齢者関連施設

当該地域の市立保育園は1園、子どもの家・子ども会館が合計5館あるほか、青少年会館があります。高齢者施設は1館となっています。

## ■今後の検討の視点

### ① 人口の急激な年齢構成変化への対応

玉縄地域は、現状では最も高齢者人口比率の低い地域ですが、20年後の推計では5地域中最大となる32%の急激な高齢者人口の増加と、深沢地域に次ぐ35%の年少人口の減少により、急激に少子高齢化が進行すると予想されます。これに伴い、現在、比較的充実している子育て関連施設や学校に余剰が生じ、一方で高齢者施設が不足すると考えられます。5年後の学級数推計では、既に小学校で4学級の減少が予測されており、速やかな対応が求められます。

### ② 施設統廃合と余剰スペースの有効活用

余剰スペースが生じる可能性のある施設では、施設統廃合の検討も考えられます。高齢者関連施設は、現在よりも多くのスペースが必要になるものと考えられる一方、学校には余剰スペースが生じることが予想されます。特に、人口構成の変化が大きいと考えられる玉縄地域では、将来のニーズ予想に基づく施設配置を考える必要があります。また、老朽化した市営住宅が2施設あり、耐震化やバリアフリー対策を含めた大規模な改修、あるいは建替が必要で、このような建物の更新に合わせて不足機能の集約や用途転換などで不足スペースの確保を図っていく方法も検討課題となります。

## <主な施設>

